

## 令和7年度 上山小学校 学校自己評価報告書

No.	評価項目	児童	保護者	教職員	関係者	平均	評価
1	児： 学校は楽しい。 保： 学校は、学校の指導方針が理解できるよう努めている。 教： 学校(教職員)は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。	3.5	3.5	3.8	3.8	3.6	A
2	児： あぶないあそびはしていない。 保： 学校は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。 教： 学校(教職員)は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	A
3	児： ともだちにはやさしくしようとしている。 保： 学校は、命の大切さや思いやりの心を育てようと努めている。 教： 学校(教職員)は、命の大切さや思いやりの心を育てようと努めている。	3.4	3.6	3.8	3.8	3.7	A
4	児： 学校の勉強はわかる。 保： 学校は、わかりやすい授業を行い、子どもにあった指導に努めている。 教： 学校(教職員)は、わかりやすい授業を行い、子どもにあった指導に努めている。	3.4	3.5	3.4	3.6	3.5	B
5	児： 先生は、ぼくの(わたしの)話をきいてくれたり、そうだんにのってくれたりしてくれる。 保： 学校は、保護者の質問や相談にきちんと対応している。 教： 学校(教職員)は、保護者に質問や相談にきちんと対応している。	3.7	3.6	3.9	3.7	3.7	A
6	児： 学校行事(運動会や遠足など)はすきで、楽しんでいる。 保： 学校は子どもたちが学校生活を楽しく有意義におくることができるよう努めている。 教： 学校(教職員)は、子どもたちが学校生活を楽しく有意義におくることができるよう努めている。	3.6	3.6	3.8	3.6	3.7	A
7	児： ともだちをいじめたり、こまらせたりしていない。 保： 学校は、いじめ防止に向けて、努力している。 教： 学校(教職員)は、いじめ防止に向けて、努力している。	3.6	3.4	3.9	3.6	3.6	A
8	児： かぜなど病気にならないように体をきたえたり、けんこうに気をつけている。 保： 学校は、子どもの健康に留意し、体力向上に努めている。 教： 学校(教職員)は、子どもの健康に留意し、体力向上に努めている。	3.4	3.5	3.3	3.6	3.5	B
9	児： おうちの人と学校の話をよくする。 保： 学校は、各種お便り、ホームページ等で学校の情報をわかりやすく公開している。 教： 学校(教職員)は、各種お便り、ホームページ等で学校の情報をわかりやすく公開している。	3.3	3.6	3.5	3.9	3.6	A
10	児： 育友会やちいきのぎょうじにさんかしている。 保： 学校は、育友会や地域の団体と連携、協力して子どもの教育に努めている。 教： 学校(教職員)は、育友会や地域の団体と連携、協力して子どもの教育に努めている。	2.6	3.6	3.3	3.9	3.3	B

※3.6 (90%) 以上：A 3.2～3.5 (80～90%) : B 3.2 (80%) 以下：C

黄・・前年度比アップ 青・・前年度比ダウン

### ■自己評価のまとめ(分析・課題・対策等)

○ABCの最終評価では、10項目中7項目で達成率90パーセント以上のA評価になった。残る3項目はBで、Cはなかった。総合的な評価は、6項目で向上した昨年度の成果を継続し、教育活動全体で高い水準を維持していることがわかる。

○昨年度から学校関係者評価を平均に加えている。児童、保護者、教職員、学校関係者の4者の平均によって最終評価を判断している。特に保護者の評価の向上から、学校の信頼度が高まっていると言える。

○評価者別にみると、保護者では全10項目中9項目で、児童と地域の学校関係者で3項目で評価が向上している。特に項目10の地域行事、育友会への参加については、教職員以外の評価者で向上していることから、「コミュニティ・スクール」や育友会活動の発展的な継続等の具体的な取組によって、児童の成長が実感できるものとなってきたと考えられる。また、「挨拶相撲」の取組によって、地域の方々と児童・保護者の関係ができていていると考えられる。

○項目3の「思いやり等」について、児童、教職員、学校関係者で評価が下がっている。下がり幅は0.1ポイント未満であるが、指導の見直しを図る必要がある。年間3回の児童生活アンケートとそれに続く個別面談を実施している。担任だけでなく多くの目で見守りを継続していく。いじめ防止については、保護者と学校関係者で向上している。一方、学力面では6年生の全国学力・学習状況調査や5年生の長崎県学力調査では、全国平均を上回っており、全体的に高水準である。しかし、学力が伸び悩む児童との二極化の実態がある。「個別最適な学び」を視野に入れた授業改善を進めていく必要がある。

○健康面では、インフルエンザ流行があり、5学級が学年・学級閉鎖をした。感染症対策を継続していく。体力面では、家庭でのゲーム等メディア利用の普及、登下校時の車による送迎、校内で持久走大会に続いて長縄大会の実施を取りやめたこと等が、教職員と学校関係者の評価が下がっている要因と考えられる。メディアコントロールや生活時間の改善につながる全校的な取組や、昼休みに運動したくなるような委員会活動の企画や環境づくりを進めていく継続していく。

○項目10の育友会、地域行事への参加については、一昨年度の最終評価CからBに向上したものの、児童や教職員では10項目中最も評価が低い。社会体育や習い事が盛んであること、家族単位で過ごす機会が増えていること、ゲームを含むメディアに接する習慣が定着していること等が考えられる。学校のみならず、地域全体の課題であるととらえている。令和7年度からのコミュニティスクール化を機会に、地域との協働活動を通して、改善を図る。学校でも、保護者と連携して積極的な働きかけを行う。